

公園内で見られる 植物

写真は6月7日(土)
自然観察会で見られた
植物です



ドクダミ (ドクダミ科)

毒や痛みに効くということから「毒痛み」が転じたもの。民間薬としてよく利用される。



ヤブムラサキ (クマツヅラ科)

葉腋から集散花序をだし、紅紫色の花をつける。



ヤマハゼ (ウルシ科)

葉は互生、葉の先はやや長くとがる。両面とも毛が散生する。



ハゼノキ (ウルシ科)

葉は互生、葉の先端は長くとがる。両面とも無毛で、裏面は粉白色。果実からロウをとるため古くから栽培させていた。



スイカズラ（スイカズラ科）

枝先に甘い芳香のある花を2個ずつつける。子供たちが花の奥の蜜をよく吸ったことからついた名前。花は白から黄色に変わり金銀花と呼ばれる。



ネジキ（ツツジ科）

花は1列に並んで下向きに咲き良い香りがする。幹がねじれることで名前がついた。



イタチハギ (マメ科)

北アメリカ原産で法面緑化に使われる。どこがイタチに似ているのでしょうか？



テイカカズラ (キョウチクトウ科)

花は芳香があり、白色から淡黄色に変化する。花冠の裂片はねじれる。



ウツギ (ユキノシタ科)

ウツギの花のことを卵の花と言う。「卵の花の匂う垣根に・・・」と歌うが花に匂いはない。



ムラサキシキブ (クマツヅラ科)

秋に紫色の実をたくさんつける。



ヤマボウシ（ミズキ科）

花の様子を、僧兵の頭巾に見立てて山法師。



イソノキ（クロウメモドキ科）

葉の付き方がめずらしく、2枚ずつ交互につくところがある。



クリ（ブナ科）

クリの実は、昔から重要な山の幸。あなたは、この花の匂いをどう感じますか？



トウネズミモチ（モクセイ科）

梅雨のころ、白い小さな花を枝先にたくさんつける。